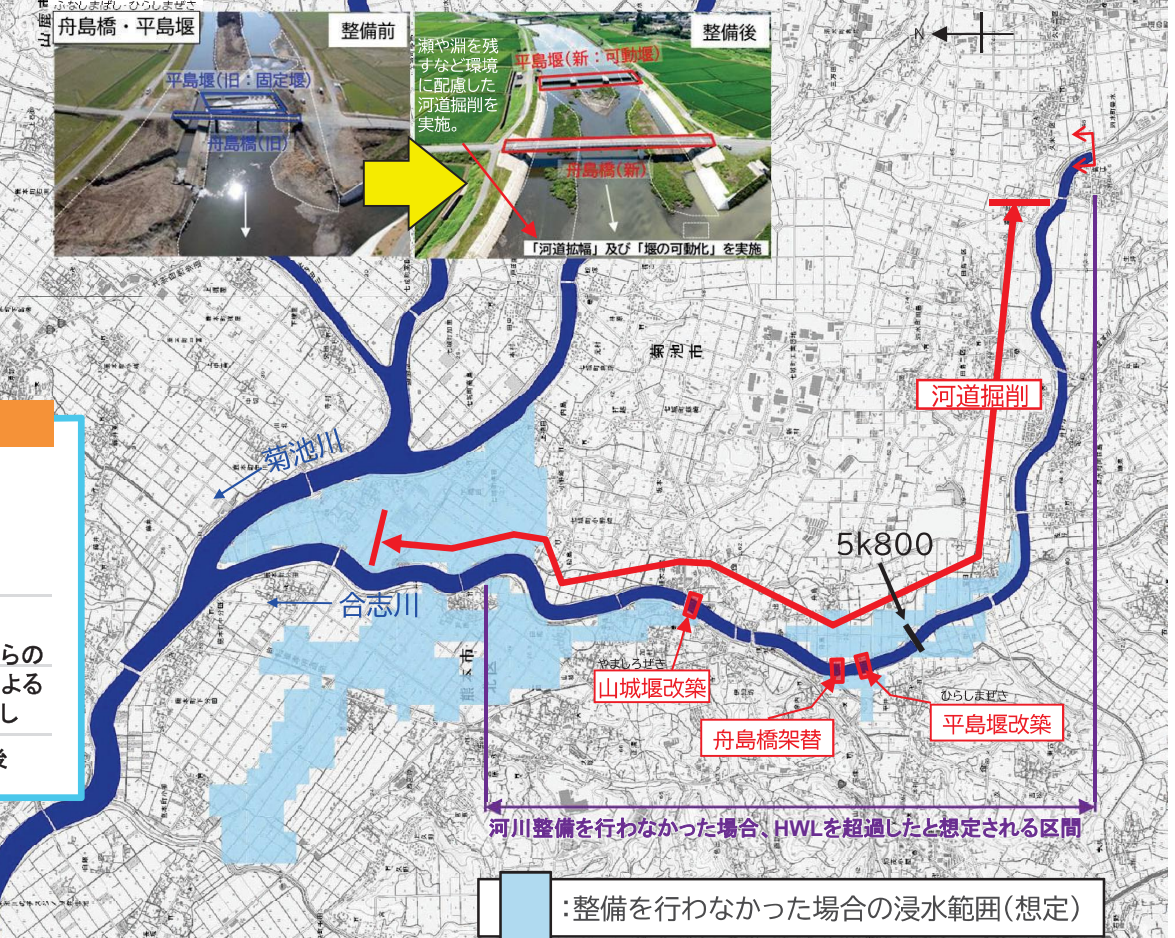
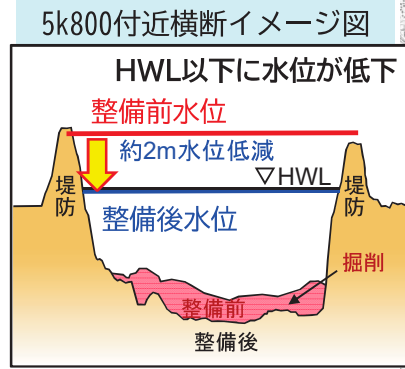


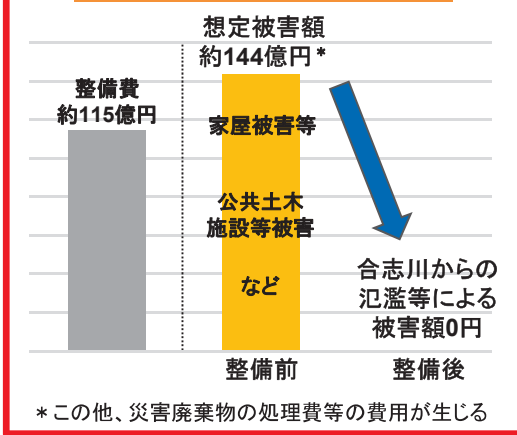
- 「令和7年8月6日からの大雨」において、九州地方では、特に令和7年8月7日(木)から8月11日(月)にかけて広く大雨となり、菊池川水系合志川流域内の合志雨量観測所(熊本県合志市)において、24時間雨量362mmを記録。
- 合志川では、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」などにより、山城堰及び平島堰の改築や河道掘削(約44万m<sup>3</sup>)等を集中的に実施(整備費:約115億円)。
- これらの整備により、今回の大雨において、平島堰付近(5k800付近)で約2mの水位低減効果を発揮するなど、整備を実施した一連区間で水位を低減し、合志川からの氾濫等による浸水被害を防止(想定被害額 約144億円を軽減)。

◆整備効果(洪水時の河川水位低減)

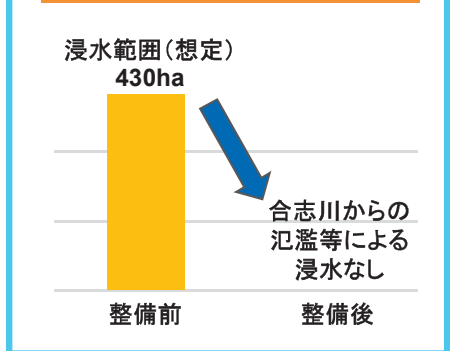
◆整備状況(堰改築、橋梁架替、河道掘削)、整備を行わなかった場合の浸水範囲(想定)



約144億円の被害軽減効果



浸水被害の軽減効果



※本資料の数値は今後の調査結果等で変わる可能性があります。

# 9. 河川整備と緑川ダムによる治水効果 (緑川水系緑川)

速報値

- 令和7年8月7日(木)から8月11日(月)にかけて、九州地方で広く大雨となり、緑川流域の稲生野雨量観測所では24時間雨量364mmを記録し、城南水位観測所では観測史上最高水位である7.49mを記録。
- 緑川では、緑川ダムによる洪水調節を行うとともに、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」などで河川整備を進めていたことにより、城南水位観測所上流(16.4k地点)において約70cmの水位低減効果を発揮し、越水を回避。
- 仮に、これらの河川整備等が無かった場合は越水していたことが想定され、多くの浸水被害が発生していた可能性がある(被害想定:浸水面積約450ha、家屋浸水約400戸)。

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

